

介護保険運営協議会会議録

会議名称	令和８年度 第２回洞爺湖町介護保険運営協議会	
開催日時	令和８年１０月１日（木） １８：００～	
開催場所	洞爺湖町役場 第２委員会室	
出席者	洞爺湖町介護保険運営協議会委員 ９名	
	事務局（担当部署）	総務部健康福祉課
議題	（報告事項） （１）地域密着型サービス事業所指定の更新について（洞爺湖町内事業所） （２）地域密着型サービス事業所指定の更新について（壮瞥町内事業所） （協議事項） （１）第１０期洞爺湖町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の策定について （２）「在宅介護実態調査」他の調査結果について	
会 議 の 概 要		
☐開会 ☐会長あいさつ ☐議事 （報告事項） （１）地域密着型サービス事業所指定の更新について（洞爺湖町内事業所） （２）地域密着型サービス事業所指定の更新について（壮瞥町内事業所） （協議事項） （１）第１０期洞爺湖町高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の策定について （２）「在宅介護実態調査」他の調査結果について 《質疑応答》 委 員 なかよしの家の職員は何人いるのか。 事務局 認知症対応型共同生活介護の人員基準は、日中は利用者３名につき介護員１名、夜間は１ユニットにつき１名以上の配置が必要になっている。なかよしの家の場合は、日中は６人以上、夜間は２人以上の配置が必要となっている。なかよしの家の人員配置は、管理者が１名、介護支援専門員が１名、その他介護職員が９名で運営しており、人員配置基準を満たしている。		

委 員

なかよしの家の指定有効期間が令和8年7月31日～令和14年7月30日までになっているが、通常更新するときは8月1日から7月31日が普通だと思うが、何か理由があるのか。

事務局

前回の更新の前に、1ユニットから2ユニットへの変更があり、18名体制になったときに変更届が出されたので、日付がずれている。

委 員

第9期計画のときに介護保険料を200円上げたが、実際には介護給付費がかなり減ったこともあり積立金が2千万円増えている。これは介護保険の健全な運営とは言えないのではないか。全道の介護保険の積立金の推移を見たが、増えているところは少なく、ほとんどが維持もしくは減少しているところが多いことを考えると、洞爺湖町では介護保険料を取り過ぎていたことになるのではないか。取り過ぎていたなら返すことが必要になってくると思う。第10期計画では、第9期計画をしっかりと検討、評価してなぜ給付が減ったのかを人口動態と介護保険の要支援要介護の割合等を考えながら、しっかりと責任ある対応をするべきだと思う。

委 員

第9期の計画値に対して、令和7年度の実績が1億円近く実績として減っているが、どうして1億円も減ったのかを分析することが大事だと思う。現時点で、わかっている範囲で説明いただきたい。

事務局

給付費の主な増減として、居宅介護サービスに関しては訪問介護、通所介護、居宅介護支援、いわゆるケアプランの作成の減少が計画値より下がったことが原因となっている。介護予防サービスに関しては、通所リハビリテーション、福祉用具、介護予防支援ケアプランが増加していて、唯一、要支援の利用者の給付費は計画値より増えている。地域密着型サービスに関しては、地域密着型特別養護老人ホーム財田の杜の入所のことである。通所介護と小規模多機能型サービスに関しては、豊浦町にあるサービス事業所のことで、町外サービス利用を想定して計画を策定したが、利用者がいなかったこともあり計画値より大きく減少した。また、団塊の世代が75歳を迎えることもあり、サービス利用が伸びると第9期計画では考えていたが、当初計画していたよりも高齢者人口が減っていることも給付費が下がった原因だと考えられる。サービスを必要としている人が使えなかったというわけではなく、入院医療を必要とする人が増えてきているような印象を受けている。介護費と医療費の合算額が自己負担限度額を超えた場合、返還する合算サービスの支給を行っているが、今年度はこの給付費もかなり伸びていて、介護と医療を併用しながら生活している人が多くなっているのではないかと考えられる。第10期計画では、介護と医療の併用ということを踏まえて計画を策定していく必要があると評価している。

委 員

第9期計画で基金が2千万円増えたが、第10期計画では基金の積み立て、または切り崩しについて町はどう考えているのか。

事務局

介護保険を円滑に運営していくために会計が残っている部分を積んでいく基金があるが、昨年度末現在で1億600万円残っている。これは3年間ずっと給付費が計画よりも下がっていたために積み立てができていたが、これをどれだけ切り崩していくかは第10期計画だけではなく、第11期、第12期いわゆる10年後まで想定した計画的な崩し方をしていかなければならないと町では考えている。

委 員

今後、町として基金が増えることは想定していないのか。

事務局

基金が増えることは想定していない。基金を切り崩して、しっかりと介護保険料に還付することを考えている。

委 員

洞爺湖町では、3年の計画が終わったときにいくら基金があると適正なのか。

事務局

介護給付費は1年間で8千万円が上下することもあるので、基金がない場合には全額町の税金を一般会計から繰り入れて介護保険を運営しなければならなくなる。税金を繰り入れしてしまうと、介護保険を使えない、使う権利がない40歳未満の人が払っている税金をそこに充てなければいけないので、そうなると適正な運営ではないと考えられる。基金の動向については、次回の運営協議会でお示しさせていただきたい。

事務局

次回以降の日程について連絡する。次回は12月を予定している。調査の結果を反映した内容で資料を作成し、第10期計画の介護保険料の具体的な金額等も試算して、提出できると考えている。令和9年1月以降は、1カ月に1回のペースで開催する。本日10月1日の15時付けでインフルエンザ注意報が発令された。気温も下がり感染症が増える可能性が高くなっている。10月1日から高齢者のインフルエンザの予防接種助成が始まっている。広報10月号で周知しているので確認をお願いします。

☐その他

☐閉会